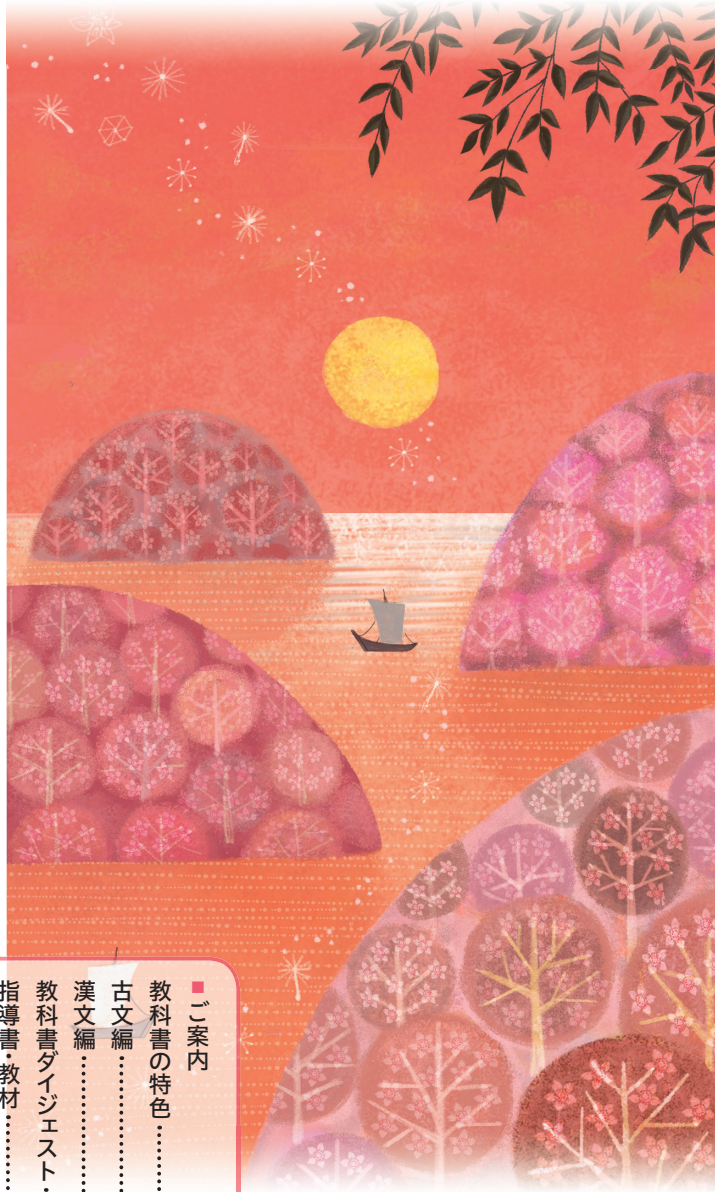


精選

古典B

改訂版



■(一)案内

教科書の特徴……………1

古文編……………2

漢文編……………6

教科書ダイジェスト……………10

指導書・教材……………30

デジタル教科書……………32

三省堂

三省堂版 国語教科書

★印は平成29年度新刊, ☆印は平成30年度新刊です。

<p>★ 国語総合</p> <p>★ 国語総合 A5判/280ページ 国総 336</p>	<p>★ 国語総合</p> <p>★ 国語総合 A5判/192ページ 国総 337</p>	<p>★ 国語総合</p> <p>★ 国語総合 A5判/400ページ 国総 338</p>	<p>★ 明解国語総合</p> <p>★ 明解国語総合 A5判/360ページ 国総 339</p>
<p>☆ 現代文B</p> <p>☆ 現代文B A5判/440ページ 現B 323</p>	<p>☆ 現代文B</p> <p>☆ 現代文B A5判/408ページ 現B 324</p>	<p>☆ 現代文B</p> <p>☆ 現代文B A5判/372ページ 現B 325</p>	<p>☆ 明解現代文B</p> <p>☆ 明解現代文B A5判/372ページ 現B 325</p>
<p>☆ 古典B</p> <p>☆ 古典B A5判/260ページ 古B 333</p>	<p>☆ 古典B</p> <p>☆ 古典B A5判/184ページ 古B 334</p>	<p>☆ 古典B</p> <p>☆ 古典B A5判/372ページ 古B 335</p>	<p>☆ 精選古典B</p> <p>☆ 精選古典B A5判/372ページ 古B 335</p>
<p>現代文A</p> <p>現代文A B5判/144ページ 現A 303</p>	<p>古典A</p> <p>古典A B5判/144ページ 古A 306</p>		

- 精選古典B編集委員
- 中列正 兵庫教育大学名誉教授
  - 岩崎昇一 東京都立国際高等学校
  - 赤井益久 國學院大学
  - 安藤延明 高槻中学校・高等学校
  - 石村貴博 専修大学
  - 大島 晃 上智大学名誉教授
  - 小池誠史 相模女子大学
  - 風間保則 武蔵高等学校中学校
  - 瀧 康秀 清泉女学院中学校高等学校
  - 田口かおる 東京都立豊多摩高等学校
  - 田中尚子 愛媛大学
  - 長尾直茂 上智大学
  - 長屋万里子 東京都立国際高等学校
  - 奈良部真樹子 千葉県立船橋芝山高等学校
  - 福家俊幸 早稲田大学
  - 細谷敦仁 東京都立戸山高等学校
  - 堀口良恵 東京都立三田高等学校
  - 松下愛理 東京都立上野高等学校

★三省堂教科書・教材サイト

<http://tb.sanseido.co.jp>

三省堂国語教科書

検索



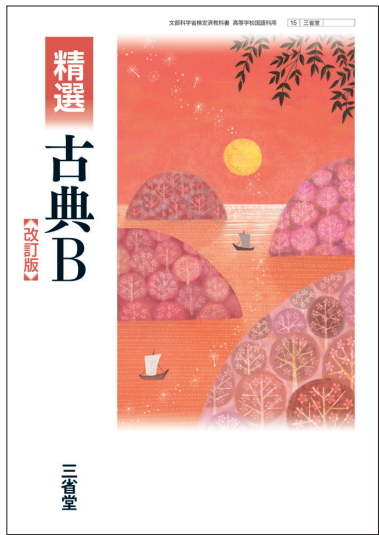
三省堂

〒101-8371 東京都千代田区三崎町2-22-14 ☎03(3230)9411(編集)・9556(営業)  
 ●大阪支社 ☎530-0002 大阪市北区曽根崎新地2-5-3 ☎06(6341)2177  
 ●名古屋支社 ☎460-0002 名古屋市中区丸の内3-21-31 協和丸の内ビル2F ☎052(953)9211  
 ●九州支社 ☎810-0012 福岡市中央区白金1-3-1 ☎092(531)1531・1532  
 ●札幌営業所 ☎060-0042 札幌市中央区大通西15-2-1 ラスコム15ビル3F ☎011(616)8722

精選

# 古典B

改訂版



古B 335 A5判・372ページ

古文 66 教材  
漢文 68 教材



## 教科書の編集方針

- 1 自ら学び自ら考える意欲を喚起し、国際社会に生きる国語の力を獲得する。
- 2 ささまざまなものの見方、考え方にふれ、幅広い人間性、豊かな感性を育てる。
- 3 言語文化の諸側面を幅広く取り上げ、日本の伝統的な文化への理解を深める。
- 4 日常生活において適切に表現する力を確実に身につけ、伝え合う力を高める。

## 教科書の特徴

古文編・漢文編

古典のおもしろさを味わい、理解を深める古文編・漢文編

■ 古文・漢文ともに、教材として定評のあるものを中心に、豊富な教材を配列。興味をもって学べるよう、古典と現代とのつながりが感じられる作品を多く取り上げました。

コラム

古典についての知識を広げ、深める二種類のコラム

■ 作品の背景を解説した「古典の扉」と、現代とのつながりを感じられる「今に生きる古典」の二種類のコラムを設けました。

指導書・教材

指導に役立つ資料と学習を助ける教材類

■ 指導書には、教材研究や評価に活用できる資料はもちろん、ワークシート・テスト問題・補充教材などを豊富に収録しました。  
■ 「アクティブ・ラーニングのために」を新設し、主体的・対話的に学びを深める学習活動案を示しました。









第一部

一 小説

季札挂劍(蒙求)

漱石枕流(世説新語)

畏饑頭(笑府) **新**

梁上君子(後漢書)

病人膏肓(春秋左氏伝)

紀昌貫虱(蒙求)

鹿柴(王維) / 宿建德江(孟浩然) / 春夜洛城聞笛(李白) / 別董大(高適) / 涼州詞(王之渙) / 送友人(李白) / 月夜(杜甫) / 八月十五日夜、禁中獨直、對月憶元九(白居易) / 遊山西村(陸游) / 史記(司馬遷)

二 漢詩

鴻門之會(項羽本紀) / 四面楚歌(項羽本紀) / 項王最期(項羽本紀)

參考 題烏江亭(杜牧)

三 史伝

史記(司馬遷)

史記 鴻門之會

可馬遷

漁父辭

屈原

236

237

238

239

240

241

242

243

244

245

246

247

248

249

250

251

252

253

254

255

256

257

258

259

260

261

262

263

264

265

266

267

268

269

270

271

272

273

274

275

276

277

278

279

280

281

282

283

284

285

286

287

288

289

290

291

292

293

294

295

296

297

298

299

300

301

302

303

304

305

306

307

308

309

310

311

312

313

314

315

316

317

318

319

320

321

322

323

324

325

326

327

328

329

330

331

332

333

334

335

336

337

338

339

340

341

342

343

344

345

346

347

348

349

350

351

352

353

354

355

356

357

358

359

360

361

362

363

364

365

366

367

368

369

370

371

372

373

374

375

376

377

378

379

380

381

382

383

384

385

386

387

388

389

390

391

392

393

394

395

396

397

398

399

400

401

402

403

404

405

406

407

408

409

410

411

412

413

414

415

416

417

418

419

420

421

422

423

424

425

426

427

428

429

430

431

432

433

434

435

436

437

438

439

440

441

442

443

444

445

446

447

448

449

450

451

452

453

454

455

456

457

458

459

460

461

462

463

464

465

466

467

468

469

470

471

472

473

474

475

476

477

478

479

480

481

482

483

484

485

486

487

488

489

490

491

492

493

494

495

496

497

498

499

500

501

502

503

504

505

506

507

508

509

510

511

512

513

514

515

516

517

518

519

520

521

522

523

524

525

526

527

528

529

530

531

532

533

534

535

536

537

538

539

540

541

542

543

544

545

546

547

548

549

550

551

552

553

554

555

556

557

558

559

560

561

562

563

564

565

566

567

568

569

570

571

572

573

574

575

576

577

578

579

580

581

582

583

584

585

586

587

588

589

590

591

592

593

594

595

596

597

598

599

600

601

602

603

604

605

606

607

608

609

610

611

612

613

614

615

616

617

618

619

620

621

622

623

624

625

626

627

628

629

630

631

632

633

634

635

636

637

638

639

640

641

642

643

644

645

646

647

648

649

650

651

652

653

654

655

656

657

658

659

660

661

662

663

664

665

666

667

668

669

670

671

672

673

674

675

676

677

678

679

680

681

682

683

684

685

686

687

688

689

690

691

692

693

694

695

696

697

698

699

700

701

702

703

704

705

706

707

708

709

710

711

712

713

714

715

716

717

718

719

720

721

722

723

724

725

726

727

728

729

730

731

732

733

734

735

736

737

738

739

740

741

742

743

744

745

746

747

748

749

750

751

752

753

754

755

756

757

758

759

760

761

762

763

764

765

766

767

768

769

770

771

772

773

774

775

776

777

778

779

780

781

782

783

784

785

786

787

788

789

790

791

792

793

794

795

796

797

798

799

800

801

802

803

804

805

806

807

808

809

810

811

812

813

814

815

816

817

818

819

820

821

822

823

824

825

826

827

828

829

830

831

832

833

834

835

836

837

838

839

840

841

842

843

844

845

846

847

848

849

850

851

852

853

854

855

856

857

858

859

860

861

862

863

864

865

866

867

868

869

870

871

872

873

874

875

876

877

878

879

880

881

882

883

884

885

886

887

888

889

890

891

892

893

894

895

896

897

898

899

900

901

902

903

904

905

906

907

908

909

910

911

912

913

914

915

916

917

918

919

920

921

922

923

924

925

926

927

928

929

930

931

932

933

934

935

936

937

938

939

940

941

942

943

944

945

946

947

948

949

950

951

952

953

954

955

956

957

958

959

960

961

962

963

964

965

966

967

968

969

970

971

972

973

974

975

976

977

978

979

980

981

982

983

984

985

986

987

988

989

990

991

992

993

994

995

996

997

998

999

1000

四 文章

桃花源記(陶潛)

愛蓮説(周敦頤)

漁父辭(屈原)

◆古典の扉 漁師と隠者

春夜宴桃李園序(李白)

儒家・道家の思想

論語 子曰「富与貴 / 子曰「道之以政 / 子貢問政

孟子 無恒産而有恒心者 / 不忍人之心

荀子 人之性悪

老子 大道廢、有仁義 / 小国寡民

莊子 曳尾於塗中 / 渾沌

酒虫(蒲松齡)

人虎伝(李景亮)

冬夜読書(菅茶山)

泊天草洋(頼山陽)

桂林荘雜詠示諸生(広瀬淡窓)

送夏目漱石之伊予(正岡子規)

題自画(夏目漱石)

航西日記(森鷗外)

◆古典の扉 日本の漢詩文

漢文の理解を深めるコラム

定評のある教材を豊富に収録

一 小説

不顧後患(説苑)  
三横(世説新語)新  
不死之薬(韓非子)新

二 史伝(二)

「三国志」の世界  
乱世之姦雄(十八史略)  
三往、乃見(三国志)  
進遇於赤壁(十八史略)  
股肱之力(十八史略)新

●今に生きる古典 日本人と三国志

三 漢詩(二)

(古体詩)

桃夭/陟岵  
生年不滿百/秋風辞(漢武帝)  
飲酒(陶潜)/子夜呉歌(李白)  
兵車行(杜甫)

四 小説

人面桃花(孟榮)  
葉限(段成式)新

◆古典の扉 日本の漢籍受容

五 史伝(二)

史記——廉頗と藺相如(司馬遷)  
完璧帰趙/渾池之会/刎頸之交  
史記——荊軻(司馬遷)  
風蕭蕭兮易水寒/図窮而匕首見

六 文章

捕蛇者説(柳宗元)  
赤壁賦(蘇軾)

七 思想

思想と寓話  
孟子 何必曰利/性猶湍水也  
荀子 青取之於藍、而青於藍  
老子 天下莫柔弱於水  
莊子 夢為胡蝶/北冥有魚  
列子 愚公移山  
韓非子 聖人不期修古  
墨子 非攻

八 漢詩(二)

◆古典の扉 諸子の思想と寓話  
長恨歌(白居易)  
参考 桐壺(源氏物語)/七月七日(更級日記)

付録

資料

見返し

古典文法要覧/古典文学史年表/  
漢文の基本形式/漢文参考略年表  
旧国名・都道府県名対照図/装束/  
住居・調度/陰暦ほか/古時刻・古方位ほか/  
春秋時代要図・戦国時代要図  
平安京条坊図/京都付近地図・奈良付近地図/  
中国参考地図

日本と三国志  
この本は、三国志の物語と歴史を、現代の視点から読み解く。田原氏の解説が、三国志の世界を生き生きと描き出している。また、三国志の歴史的背景や、三国志の文化・芸術についても詳しく解説されている。三国志の世界を、現代の視点から読み解く。田原氏の解説が、三国志の世界を生き生きと描き出している。また、三国志の歴史的背景や、三国志の文化・芸術についても詳しく解説されている。

漢文をより身近に感じられるコラム

古典と現代とのつながりが感じられる作品を収録

人虎伝  
李景亮  
「三国志」の世界  
乱世之姦雄  
この本は、三国志の物語と歴史を、現代の視点から読み解く。田原氏の解説が、三国志の世界を生き生きと描き出している。また、三国志の歴史的背景や、三国志の文化・芸術についても詳しく解説されている。

# 伊勢物語

古文は、生徒にふれさせたい作品を豊富に収録。内容をイメージしやすくする図版や資料を配置するなど、読解に役立つとともに、見て楽しくなるような工夫を随所に凝らしました。

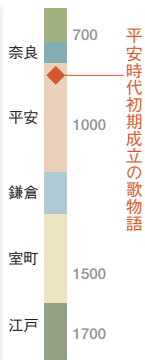
## 初冠

昔、男、初冠<sup>1</sup>して、奈良の京、春日<sup>2</sup>の里に、しる由<sup>3</sup>して、狩りに往<sup>4</sup>にけり。その里に、いとなまめいたる女はらから住みけり。この男、垣間<sup>5</sup>見てけり。思ほえず、ふるさとにいとほしたなくてありければ、心地惑<sup>6</sup>ひにけり。男の、着たりける狩衣<sup>7</sup>の裾を切りて、歌を書きてやる。その男、しのぶずりの狩衣をなむ着たりける。



『伊勢物語絵巻』

教材名の下に「成立年代バー」をおき、ひとめで作品の成立時期がわかるようにしました。



- 1 初冠 元服して、初めて冠を着けること。男子が十代前半に行う成人の儀。
- 2 春日の里 平城京（現在の奈良市）の東部。春日山の西麓の地域。
- 3 しる由して 領有している縁で。
- 4 狩り 鷹狩り。
- 5 問 「ふるさと」とはこのことか。
- 6 狩衣 もとは狩りに際に貴族が着用した装束。後に平常服となった。巻末「装束」参照。
- 7 しのぶずり 陸奥の国信夫郡（現在の福島県福島市）から産出されたという「忍草」の茎や葉で乱れ模様をすりつけた布。後出の「しのぶもぢずり」も同じ。

春日野の若紫のすり衣しのぶの乱れ限り知られず  
となむ、追ひつきて言ひやりける。ついでおもしろきこともや思ひけむ。  
陸奥のしのぶもぢずり誰ゆゑに乱れそめにし我ならなくに  
といふ歌の心ばへなり。昔人は、かくいちはやきみやびをなむしける。

（第一段）

- 7 春日野の…… 上三句は「しのぶ」の序詞。「しのぶの乱れ」は「しのぶずりの乱れ模様」と「こいしのぶ心の乱れ」との掛詞。
- 8 追ひつきて すぐに。
- 9 ついで 事のなりゆき。
- 10 陸奥の…… 『古今和歌集』所収の河原左大臣源融の歌。上二句は「乱れ」の序詞。
- 11 いちはやきみやび 情熱をこめた風雅なふるまい。

文法を理解するための問いと内容を理解するための問いを教材に応じて設けました。

### 学習の手引き

- 1 ❖ 次の傍線部の違いを、文法的に説明してみよう。  
① 狩りに往にけり。(40・2)  
② 誰ゆゑに乱れそめにし(41・3)
- 2 ❖ 「春日野の……」(41・1)の歌は「陸奥の……」(41・3)の歌をどのように取り入れているか、まとめてみよう。
- 3 ❖ 男のどのような行動が「いちはやきみやび」(41・4)であったのか、話し合ってみよう。

### \* 語句

由 なまめく はらから ふるさと  
はしたなし 惑ふ 限り  
おもしろし 心ばへ みやび



参考 つひにゆく道

昔、男、わづらひて、心地死ぬべくおぼえければ、  
つひにゆく道とはかねて聞きしかどきのふ今日とは思はざりしを

(第一二五段)



『伊勢物語図色紙』(江戸時代前期)

伊勢物語 47

◆伊勢物語  
歌物語。作者未詳。平安時代初期の成立。百二十余段からなる。在原業平と考えられる「男」の一代記のように構成されており、各段は和歌を核として、男女の愛、肉親の情などが描かれている。本文は『新編日本古典文学全集』によった。

古典の扉 「声」を聞く——物語の歴史

「物語」には「声」がある。

仮名散文によつて書きつづられた物語は、語り手によつて聞き手に語り聞かせる趣で書かれているからだ。

今は昔、竹取の翁といふ者ありけり。……もと光る竹なむ一筋ありける。あやしがりて、寄りて見るに、筒の中光りたり。……手にうち入れて、家へ持ちて来ぬ。妻の嬸に預けて養はず。(『竹取物語』)

現存する最古の物語といわれる『竹取物語』は、竹の中の「三寸ばかりなる人」を発見する不思議な場面から始まる。耳をすますと、文末表現は「けり」からしだいに現在形に変わっていき、「聞き手」は知らないうちに物語の世界に入り込んで、目の前にできごとを見て感じるようになる。さらに耳を傾けると、物語にはため息、昂揚、時には批評など、語るできごとに対する架空の語り手の言葉が聞こえてくる。

上達部 上人などもあいなく目をそばめつつ、いとまばゆき人の御覚えなり。(『源氏物語』光源氏の誕生)  
語り手は、帝の桐壺更衣への寵愛に対し目を背ける上

達部、殿上人の態度を「あいなし(筋違いにも)」と批判しているのだ。そんな「声」に導かれ、読者は自らできごとを批評し、想像をかきたてられていく。

『竹取物語』の作り物語の虚構性と十世紀に登場した『伊勢物語』などの歌物語の抒情性、『蜻蛉日記』に始まる女流日記文学の内面性が結実した作品が十一世紀初め成立の『源氏物語』だ。この物語ではしばしば語り手の「声」が事の真相や意味を問うが、そこに作品世界を相対化する批評性も生まれてきた。

その後十一〜十二世紀には歴史物語が新生面を切り開いた。『大鏡』は藤原道長の栄華を主題とするが、作者は雲林院の菩提講で主に百八十歳を超える老翁二人が見聞した「歴史」を語るという「語り」の場を虚構する。複数の「声」を響かせることで、政治の裏側までも描き出して「歴史」への批判性を獲得したのである。

「声」の歴史は続く。鎌倉時代には軍記物語が登場するが、『平家物語』には琵琶法師の「声」によつて生き生きと時代を語る「平曲」の息づかいが今に残る。「物語」は耳を傾けて読みたい。

# 源氏物語

各作品、豊富な章段を収録。特に、「源氏物語」「大鏡」は、第一部・第二部ともに取り上げ、物語の幅広い世界を味わえるようにしました。

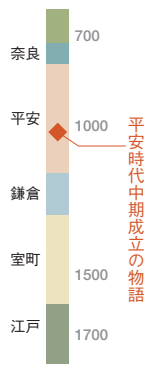
## 紫式部

### 廢院の怪

十七歳になった光源氏は、五月雨の降る宮中での宿直の夜、頭中将（正妻葵の上の実兄）たちと女性論を交わした。父帝の妃藤壺宮への秘めた思いに悩む光源氏は、この「雨夜の品定め」によって中流階級の女性へ関心を抱く。そんな折、夕顔の白い花が咲く粗末な家に女（夕顔）が住んでいることを知った。頭中将ゆかりの女性かと思いつつも互いの素性を明かさぬまま、光源氏は乳母子惟光の手引きで女のもとに通い始める。八月十五日の夜夕顔の家で過ごした光源氏は、夕顔をひそかに近くの荒れ果てた廢院に連れ出した。うちとけた無邪気な様子を見せる夕顔を見るにつけ、光源氏は以前からの通い所である六条御息所（前春宮妃）との気づまりな関係を思い比べるのだった。

宵過ぐるほど、すこし寝入り給へるに、御枕上にいとをかしげなる女居て、<sup>1</sup>「おのがいとめでたしと見奉るをば尋ね思ほさで、かく異なることなき人を

率ておはして時めかし給ふこそ、いとめざましくつらけれ。」とて、この御  
かたはらの人をかき起こさむとすと見給ふ。物に襲はるる心地して、驚き給  
へれば、灯も消えにけり。うたて思さるれば、太刀を引き抜きてうち置き給  
ひて、右近を起こし給ふ。これも恐ろしと思ひたるさまにて参り寄れり。  
「渡殿なる宿直人起こして、紙燭さして参れと言へ。」とのたまへば、「いか  
でかまからむ、暗うて。」と言へば、「あな若々し。」とうち笑ひ給ひて、手  
を叩き給へば、山彦の答ふる声いと疎まし。人え聞きつけで参らぬに、この  
女君いみじくわななき惑ひて、いかさまにせむと思へり。汗もしとどになり  
て、我かの気色なり。「もの怖ぢをなむわりなくせさせ給ふ本性にて、いか  
に思さるるにか。」と右近も聞こゆ。いと弱くて、昼も空のみ見つるも  
のを、いとほしと思して、「我人を起こさむ。手叩けば山彦の答ふる、いと  
うるさし。ここに、しばし、近く。」とて、右近を引き寄せ給ひて、西の妻  
戸に出でて、戸を押し開け給へれば、渡殿の灯も消えにけり。風すこしうち  
吹きたるに、人はすくなくて、候ふかぎり皆寝たり。この院の預かりの子、  
睦ましく使ひ給ふ若き男、また上童一人、例の隨身ばかりぞありける。召せ  
ば、御答へして起きたれば、「紙燭さして参れ。隨身も弦打ちして絶えず声



平安時代中期成立の物語

- 1 おのがいとめでたしと見奉るをば私（あなた様を）大変立派だとお慕い申しあげている、その私を。
- 2 異なることなき人 格別のとりえもない人。こは、夕顔を指す。

- 3 太刀 こは、魔除けのための護身の太刀。
  - 4 右近 夕顔の侍女。
  - 5 渡殿 二つの主要な建物をつなぐ通路のような建物。こは、渡殿の片側に造つてある小部屋。
  - 6 宿直人 夜間に警護の役目を負う人に紙を巻いた携帯用の照明具。
  - 7 紙燭 細い松の棒で、手で持つ部分に紙を巻いた携帯用の照明具。
  - 8 問 誰の「本性」か。
  - 9 妻戸 寝殿造りの建物の四隅にある両開きの板戸。
  - 10 預かりの子 管理人の子。
  - 11 上童 殿上童。貴族の子息で、見習いのために昇殿を許され、召し使われる少年。こは、源氏の従者の一人。
  - 12 隨身 勅命によって貴人の警護のために刀や弓矢を携えて付き従った近衛府などの役人。
  - 13 弦打ち 鳴弦。魔除けのために矢をつがえず、弦だけを鳴らすこと。
  - 14 声づくれ 警戒の声をたてよ。
- \* 語句  
まかる しとどに もの怖ぢ  
睦まし

づくれと仰せよ。人離れたる所に心とけて寝ぬるものか。惟光朝臣の来たりつらむは。」と問はせ給へば、「候ひつれど仰せ言もなし、暁に御迎へに参るべき由申してなむ、まかで侍りぬる。」と聞こゆ。このかう申す者は、滝口なりければ、弓弦いとつきづきしくうち鳴らして、「火危ふし。」と言ふ言ふ、預かりが曹司の方に去ぬなり。内裏を思しやりて、名対面は過ぎぬらむ、滝口の宿直奏し今こそ、と推しはかり給ふは、まだいたう更けぬにこそは。

帰り入りて探り給へば、女君はさながら臥して、右近はかたはらにうつ伏し臥したり。「こはなぞ、あなもの狂ほしもの怖ぢや。荒れたる所は、狐などやうのもののおびやかさむとて、け恐ろしう思はするならむ。まろあれば、さやうのものにはおどされじ。」とて引き起こし給ふ。「いとうたて乱り心地の悪しう侍れば、うつ伏し臥して侍るや。御前にこそわりなく思さるらめ。」と言へば、「そよ、などかうは。」とてかい探り給ふに息もせず。引き動かし給へど、なよなよとして、我にもあらぬさまなれば、いといたく若びたる人にて、物にけどられぬるなめりと、せむ方なき心地し給ふ。紙燭持て参れり。右近も動くべきさまにもあらねば、近き御几帳を引き寄せて、「なほ持て参れ。」とのたまふ。例ならぬことにて、御前近くもえ参らぬつつ

ましきに、長押にもえのぼらず。「なほ持て来や。所に従ひてこそ。」とて、召し寄せて見給へば、ただこの枕上に夢に見えつる容貌したる女、面影に見えてふと消え失せぬ。昔物語などにこそかかることは聞け、いとめづらかにむくつけけれど、まづ、この人いかになりぬるぞと思ほす心騒ぎに、身の上も知られ給はず添ひ臥して、「やや。」と驚かし給へど、ただ冷えに冷え入りて、息はとく絶え果てにけり。言はむ方なし。頼もしくいかにと言ひふれ給ふべき人もなし。法師などをこそはかかる方の頼もしきものには思すべけれど。さこそ強がり給へど、若き御心にて、言ふかひなくなりぬるを見給ふに、やる方なくて、つと抱きて、「あが君、生き出で給へ、いといみじき目な見せ給ひそ。」とのたまへど、冷え入りにたれば、けはひもの疎くなりゆく。右近は、ただあなむつかしと思ひける心地みな覚めて、泣き惑ふさまいといみじ。南殿の鬼のながしの大官おびやかしかける例を思し出でて、心強く、「ざりともいたづらになり果て給はじ。夜の声はおどろおどろし。あなかま。」と諫め給ひて、いとあわたたしきにあきれたる心地し給ふ。(夕顔)

14 滝口 滝口の武士。藏人所に属し、宮中の警備にあたった。

15 曹司 部屋。

問 「去ぬなり」と判断した根拠は何か。  
16 名対面 宮中で亥の一刻(午後九時頃)に毎夜行われる宿直の殿上人の点呼。本人が姓名を名のる。

17 滝口の宿直奏し 宿直の滝口の武士の点呼。「名対面」のあとに行う。

問 「御前にこそわりなく思さるらめ」とは、誰がどのような様子であるということか。

18 けどられぬるなめり 正気を奪われてしまったのだろう。

19 長押 ここは、下長押のことで、簀子から廂の間にかかる部分の間仕切りのために渡した横木。

20 所に従ひてこそ 遠慮も場所次第だ。

21 身の上も知られ給はず 自分の身の危険もお考えになれず。

22 もの疎くなりゆく うす気味悪くなつていく。ここは、死相が表れてきたこと。

23 南殿の鬼の……おびやかしかける例 紫宸殿の鬼が藤原忠平(六六)齒を脅かしたが、反対に追い払われた例(『大鏡』忠平伝)。

問 「ざりとも」とは、どのようなことを受けているか。

\* 語句

さながら なぞ もの狂ほし まろ我にもあらず つつましきむくつけし 言はむ方なし 頼もしむつかし いたづらになるおどろおどろし あなかまあわたたし

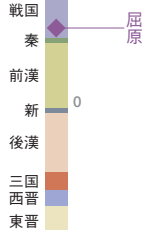




# 漁父辞

漢文は、教材として定評ある作品を豊富に収録。人間の生き方やものの見方・考え方がよく表れているものや現代と関連づけて読めるものを選んで教材化しました。

## 屈原



屈原既放、遊於江潭、行吟沢畔、顔色憔悴、形容枯槁。

漁父見而問之、曰、「子非三閭大夫与、何故至於斯？」

屈原曰、「举世皆濁、我独清、衆人皆醉、我独醒、是以見放。」

漁父曰、「聖人不凝滯於物、而能与世推移、世人皆濁、何不混其泥、而揚其波、衆人

皆醉、何不鋪其糟、而歠其醕、何故深思高舉、自令放為？」

屈原曰、「吾聞之、新沐者必彈冠、新浴者必振衣、安能以身之察察、受物汶汶者乎。寧赴湘流、葬於江魚之腹中、安能以皓皓之白、而蒙世俗之塵埃乎。」

漁父莞爾而笑、鼓枻而去、乃歌曰、「滄浪之水清兮、可以濯吾纓、滄浪之水濁兮、可以濯吾足。」

遂去不復与言。

(古文真宝)

◆辞 文体の一種。叙情を主とし、韻を踏む。

- 1 江潭 川のほとり。
- 2 沢畔 沼沢のほとり。
- 3 枯槁 痩せこけている。

- 4 漁父 漁師。「父」は男子の敬称。
- 5 三閭大夫 楚の王族である昭・屈原の三氏（三閭）をつかさどる官。

問 「濁」「醉」とは、それぞれどのようなことをたとえているか。

- 6 凝滯 こたわる。
- 7 混 かき混ぜて濁す。
- 8 糟 酒の搾りかす。
- 9 醕 酒のかすに水を加えて搾った薄い酒。
- 10 高舉 孤高を保つ。
- 11 沐 髪を洗う。
- 12 彈冠 冠のちりを払う。
- 13 察察 潔白な様子。
- 14 汶汶 汚れている様子。
- 15 湘流 湘江。湖南省の川。北流して洞庭湖に注ぐ。
- 16 皓皓 潔白な様子。
- 17 莞爾 につこりと笑う。
- 18 鼓枻 音をたてて勢いよくかいをこぐ。
- 19 滄浪 漢水の下流。漢水は陝西省に発して、湖北省武漢市の辺りで長江に合流する川。
- 20 纓 冠のひも。

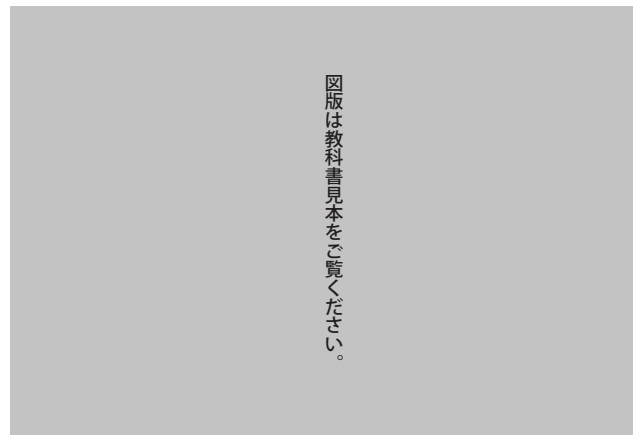
\*非[A]与 [A]ではないか。(疑問)  
 \*何故[A] どうして[A]なのか。(疑問)  
 \*見[A] [A]される。(受身)  
 \*何[A] [A] どうして[A] (し) ないのか、いや、[A]すればよいではないか。(反語)

教材名の下に「成立年代バー」をおき、ひとめで作品の成立時期や作者の活動時期などがわかるようにしました。

学習の手引き

- 一 本文中の対句を指摘してみよう。
- 二 屈原と漁父の考え方の違いをまとめてみよう。
- 三 屈原の生き方について感じたこと、考えたことを話し合ってみよう。

文法や漢字について理解を深める  
問いと内容を理解するための問い  
を設けました。



図版は教科書見本をご覧ください。

『屈原』（1898年 横山大観筆）

\* 安能[A]乎 どうして[A]（することが）できようか、いや、決して[A]できない。〔反語〕  
 \* 寧[A]、安能[B]乎 いっそ[A]（する）としても、どうして[B]（することが）できようか、いや、決してできない。〔選択〕  
 \* 可[A]、それ[A]（することが）できる。〔可能〕  
 \* 不復[A]二度とは[A]（し）ない。〔部分否定〕

◆ 古文真宝  
 235 ページ参照。  
 ◆ 屈原  
 前三四三年？～前二七七年？。名は平、字は原。戦国時代の政治家。楚の王族に生まれ、懐王（在位前三八〇～前二九九）の信任が厚かったが、讒言にあつて追放され、汨羅江（湖南省）に身を投じて死んだ。

古典の扉 漁師と隠者

わが国では、釣り人を「太公望」とも呼ぶ。この命名は、中国古代斉国の太公望呂尚にちなんでいる。呂尚の家は、治水の天子といわれた夏の禹王の時に大いに功績があつて榮えていたが、呂尚の時には落ちぶれていた。老齢になるまで困窮を余儀なくされた呂尚は、渭水のほとりで釣り糸を垂れながら、後の文王西伯昌の知遇を求めていた。

文王を助けて周を盟主に導いた功績で、呂尚をしのぐ者はいない。歴史書には、人格化した姿で描かれている。呂尚の特異な風貌は、後に権謀術数をもつて文王・武王のブレンとなり、やがて齊に封ぜられる出世ぶりに似つかわしい。

陶淵明の「桃花源記」では、道に迷つて平和な世界に足を踏み入れる役割を「漁師」が演じており、屈原の「漁父辞」には、儒家的な言辞を弄する屈原に対して道家的な主張を繰り返す漁父が登場する。これらの人物像は、古く『莊子』漁父編に登場する、礼を否定して自然の真情を尊重すべきであると孔子に進言する漁父などに

原像があると考えられる。名利に超然とし、権勢にとらわれず、小舟に乗つて波間に漂うさまは、莊子が理想とする「逍遙遊」の境地を象徴している。社会の束縛、人為の秩序から離れ、自由自適な境地に遊ぶ理想像として、舟に乗る漁師は詩歌の中に歌われていくことになった。柳宗元「江雪」に詠まれる、雪中の漁師もその一例である。  
 漁父は当時、身分が低く、貧しい生活の象徴でもあつた。それゆえに、既成の価値観や倫理的な枠組みに対し、批判の意味をもち続けることができた。貧しく何ものにも束縛されないからこそ、自適に暮らすことができたのである。やがて、それは俗世を捨て、自然に隠遁する隠者の像と重なることになる。



『漁夫図』  
 (明代 張路筆)

古典への理解を深めたり、現代との関わりを考えたりすることができるコラム「古典の扉」を随所に設けました。



# 「三国志」の世界

史実と文学的創作とが交錯する史伝を豊富に採録。文章表現の巧みさや登場人物の描かれ方に着目して、漢文のおもしろさを存分に味わえるようにしました。

三世紀初めの後漢末の中国では、曹操が率いる魏、漢王朝の継承を唱える劉備の蜀、孫権が守る呉の三国が鼎立、群雄が割拠して覇を競った。その激動の時代は、個性あふれる人物たちによって歴史書に彩られてきた。

## 乱世之英雄

操少機警、有権数。任俠放蕩、不治行業。



『三国志』関係地図

- 1 操 一五五年〜二二〇年。三国の魏の曹操。字は孟徳。武帝と諡された。
- 2 機警 機転がきき、察しが早い。
- 3 権数 人を巧みに欺くはかりごと。権謀術数の略。
- 4 行業 節操と学問。

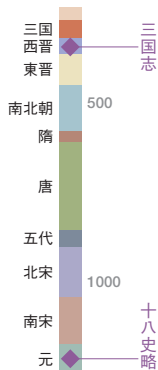
汝南許劭、与從兄靖、有高名。共覈論郷党人物。每月輒更其題品。故汝南俗有旦評。操往問劭曰、我何如人。劭不答。劫之。乃曰、子治世之能臣、乱世之英雄。操喜而去。至是以討賊起。

(十八史略)

◆曹操はどのような人物として描かれているか、説明してみよう。



曹操像 (江戸時代後期 葛飾北斎筆)



- 5 汝南 現在の河南省汝南県。
  - 6 許劭 一五〇年〜一九五年。後漢の人。字は子将。
  - 7 靖 生没年未詳。字は文休。
  - 8 覈論 よく調べて評論する。
  - 9 題品 物事の優劣を批評すること。
  - 10 旦評 毎月一日に行われた人物評。
- 問 許劭は、なぜ答えなかったのか。

\* 何如 [A] どのような [A] か。 [疑問]

### 三往乃見

時<sup>1</sup>先<sup>1</sup>主<sup>1</sup>屯<sup>2</sup>新<sup>2</sup>野<sup>2</sup>。徐<sup>3</sup>庶<sup>3</sup>見<sup>3</sup>先<sup>3</sup>主<sup>3</sup>。先<sup>4</sup>主<sup>4</sup>器<sup>4</sup>之<sup>4</sup>。謂<sup>5</sup>先<sup>5</sup>主<sup>5</sup>曰<sup>5</sup>「諸<sup>5</sup>葛<sup>5</sup>孔<sup>5</sup>明<sup>5</sup>者<sup>5</sup>、臥<sup>5</sup>竜<sup>5</sup>也<sup>5</sup>。將<sup>5</sup>軍<sup>5</sup>豈<sup>5</sup>願<sup>5</sup>見<sup>5</sup>之<sup>5</sup>乎<sup>5</sup>」。先<sup>6</sup>主<sup>6</sup>曰<sup>6</sup>「君<sup>6</sup>与<sup>6</sup>俱<sup>6</sup>来<sup>6</sup>」。庶<sup>6</sup>曰<sup>6</sup>「此<sup>6</sup>人<sup>6</sup>可<sup>6</sup>就<sup>6</sup>見<sup>6</sup>、不<sup>7</sup>可<sup>7</sup>屈<sup>7</sup>致<sup>7</sup>也<sup>7</sup>。將<sup>7</sup>軍<sup>7</sup>宜<sup>7</sup>枉<sup>7</sup>駕<sup>7</sup>顧<sup>7</sup>之<sup>7</sup>」。由<sup>8</sup>是<sup>8</sup>先<sup>8</sup>主<sup>8</sup>遂<sup>8</sup>詣<sup>8</sup>亮<sup>8</sup>。凡<sup>9</sup>三<sup>9</sup>往<sup>9</sup>、乃<sup>9</sup>見<sup>9</sup>。因<sup>9</sup>屏<sup>9</sup>人<sup>9</sup>曰<sup>9</sup>「漢<sup>10</sup>室<sup>10</sup>傾<sup>10</sup>頽<sup>10</sup>、姦<sup>10</sup>臣<sup>10</sup>窃<sup>10</sup>命<sup>10</sup>、主<sup>10</sup>上<sup>10</sup>蒙<sup>10</sup>塵<sup>10</sup>。孤<sup>10</sup>不<sup>10</sup>度<sup>10</sup>德<sup>10</sup>量<sup>10</sup>、力<sup>10</sup>欲<sup>10</sup>信<sup>10</sup>大<sup>10</sup>義<sup>10</sup>於<sup>10</sup>天<sup>10</sup>下<sup>10</sup>。而<sup>10</sup>智<sup>10</sup>術<sup>10</sup>淺<sup>10</sup>短<sup>10</sup>、遂<sup>10</sup>用<sup>10</sup>猖<sup>10</sup>獗<sup>10</sup>、至<sup>10</sup>于<sup>10</sup>今<sup>10</sup>日<sup>10</sup>。然<sup>10</sup>志<sup>10</sup>猶<sup>10</sup>未<sup>10</sup>已<sup>10</sup>。君<sup>10</sup>謂<sup>10</sup>計<sup>10</sup>將<sup>10</sup>...

1 先主 劉備(二六〇〜三三三)を指す。劉備は三国の蜀の建国者。字は玄德。  
 2 新野 河南省南陽市新野県。  
 3 徐庶 生没年未詳。三国時代の策士。字は元直。  
 4 器之 この人の才能を高く評価する。  
 5 諸葛孔明 一八一年〜二三四年。三国の蜀の政治家。名は亮。孔明は字。  
 6 就 「臥竜」とは、どのような意味か。  
 7 就 近づく。  
 8 枉駕 無理に招き寄せる。  
 9 屏人 人ばらいをする。  
 10 傾頽 落ちぶれ、滅亡する。  
 11 主上 天子。漢の献帝をいう。  
 12 蒙塵 天子が都から逃げ出す。  
 13 孤 私。王侯の謙称。

### 安出

亮<sup>15</sup>答<sup>15</sup>曰<sup>15</sup>「自<sup>15</sup>董<sup>15</sup>卓<sup>15</sup>已<sup>15</sup>来<sup>15</sup>、豪<sup>15</sup>傑<sup>15</sup>並<sup>15</sup>起<sup>15</sup>、跨<sup>15</sup>州<sup>15</sup>連<sup>15</sup>郡<sup>15</sup>者<sup>15</sup>、不<sup>16</sup>可<sup>16</sup>勝<sup>16</sup>数<sup>16</sup>。曹<sup>17</sup>操<sup>17</sup>比<sup>17</sup>於<sup>17</sup>袁<sup>17</sup>紹<sup>17</sup>、則<sup>17</sup>名<sup>17</sup>微<sup>17</sup>而<sup>17</sup>衆<sup>17</sup>寡<sup>17</sup>。然<sup>17</sup>操<sup>17</sup>遂<sup>17</sup>能<sup>17</sup>克<sup>17</sup>紹<sup>17</sup>。以<sup>17</sup>弱<sup>17</sup>為<sup>17</sup>強<sup>17</sup>者<sup>17</sup>、非<sup>17</sup>惟<sup>17</sup>天<sup>17</sup>時<sup>17</sup>、抑<sup>17</sup>亦<sup>17</sup>人<sup>17</sup>謀<sup>17</sup>也<sup>17</sup>」。

14 猖獗 失敗する。  
 15 董卓 ?〜一九二年。後漢末の群雄の一人。字は仲穎。献帝を擁立して専横をきわめた。  
 16 不可勝数 全てを数えあげることができない。  
 17 曹操 276ページ注1参照。  
 18 袁紹 ?〜二〇二年。後漢末の群雄の一人。字は本初。  
 問 「天時」「人謀」とは、それぞれ何を意味するか。

◆劉備と諸葛亮との出会いを、順を追って整理してみよう。



三顧堂 (湖北省襄樊市)

\* 豈(A)乎 おそらくAであろう。  
 \* 安(A)どこにA(する)か。[疑問]  
 \* 非惟(A)、抑亦(B)也 ただAだけではなく、さらにBである。

今に生きる古典  
日本人と三国志

中国の古典の中でも、特に三国志の世界は今でも日本人の生活の中に息づいている。そして、私たちはあまり意識せずに三国志にちなむ言葉を日常生活で使っている。例えば、大切な人材を自分の陣営に招きたい時に「三顧の礼を尽くしてお迎えする」と言うことがある。この「三顧の礼」という言葉は、蜀の劉備が諸葛孔明を軍師として自陣に迎える際に、三度まで孔明のもとを訪問して礼を尽くしたという故事に基づいている（三往、乃見）<sup>278</sup>（ページ参照）。また「危急存亡の秋」という言葉がある。これも三国志にちなむもので、諸葛孔明が魏を討つための決戦に臨んで、後主劉禪（劉備の子）に奉った上表文（これを「出師の表」という）中に用いた言葉である。危難が間近に迫り、生き残れるかどうかの瀬戸際の状況にあることをいう。

このように三国志の世界は古くから親しまれてきたが、とりわけこの日本人の好みに拍車をかけたのが、今から三百年以上前の一六九一（元禄四）年に刊行された『通

俗三国志』であろう。

この書物は明代の羅貫中の作とされる通俗小説『三国志演義』を翻訳したもので、翻訳者は湖南の文山と名のり、経歴不明の人物である。軍記物のような歯切れのよい名調子で翻訳された本書は、出版後すぐにベストセラーとなった。全五十巻という、当時としても分量のある大部の著作であったにもかかわらず、刊行の翌年にはすぐさま再版されていることから考えても、本書がいかに人気を博した書物であったかがわかるであろう。本書は、歴史を題材としたフィクションの世界を紹介したものであったが、ここに描かれた三国志の世界はまたくまに多くの読者をと

りこにしたのであった。

江戸時代も終わり頃になると、この『通俗三国志』にビジュアルな要素を加えた書物が登場する。一八三六（天保七）年から一八四一（天保一二）年に



『絵本通俗三国志』より  
葛飾戴斗の挿画

かけて刊行された『絵本通俗三国志』である。本書では、有名な場面に浮世絵師葛飾北斎の門人である葛飾戴斗による勇壮な挿絵を添えている。そのため本書の刊行を機に、字は読めなくとも、挿絵で物語を楽しみたいという読者までも巻き込んで、三国志の世界はなおいつそう日本の社会に浸透していったのである。かくして、三国志の重要な登場人物の一人である関羽は、江戸のお祭り

まで登場することとなった。江戸三大祭の一つに数えられた神田明神の祭礼には、神々や武将などを飾った山車が街角を巡行したが、この山車の中の一つに、青龍偃月刀という武器を手に持つ関羽を祭ったものがあつた。現在は、この模型が東京都墨



神田明神山車（関羽山車）模型

田区にある東京都江戸東京博物館に展示されており、江戸つ子が自分たちの守り神として振り仰いだ関羽像がどのようなものであつたか、実際に確認することができる。関羽は『三国志演義』の中で武勇に優れた、義理堅い忠義の人として描かれ、その完璧なまでの正義のキャラクターが民間に定着した結果、しだいに民衆の崇拜の対象として神格化されていった。そして、関帝と呼ばれる神となったのである。神田明神の山車に鎮座する関羽像は、当然この流れの上にある。

関羽を祭った社を関帝廟というが、これは中国のみならず東アジアの国々に、あるいは世界各地にある中華街等に存在し、商売の神や吉凶を占う神として人々の尊崇を集めている。日本でも横浜や神戸などに関帝廟があるが、ここを訪れると、赤黒い顔に切れ長の目で、長いひげを生やした関羽像の前で、人々が変わらぬ敬愛の念をもってぬかずく姿を目にすることができる。

また、興味深いことに関羽は仏教寺院の守り神（これを伽藍神という）でもある。この風習もまた日本に伝わり、江戸時代初期に明からの渡来僧によって開かれた黄檗宗の寺院には今もなお多く関帝を祭っている。





指導書

本体価格二九、〇〇〇円（税別）

指導資料

教材研究に役立つ資料や、実際の授業や評価で活用できる情報を豊富に掲載しています。

発問例集

指導資料に掲載した発問をまとめたデータを収録しています。

ワークシート

- 構成・内容理解シート
- 語句・漢字学習シート
- 古文品詞分解シート
- 漢文書き下し文シート
- 古典口語訳シート

基本テスト

短時間で基礎を養う小テスト。現代文編では漢字や語句、古文では文法、漢文では句法などについて出題します。

評価問題

定期考査などに使える問題を、各教材、難易度別に複数収録しています。

実力問題

教科書の教材と同じ著者の作品や、別の著者による同じテーマの文章などを素材にした実力問題を豊富に収録しています。

補充教材

教科書の教材に関連する資料や、発展的に読むことができる作品などを収録しています。

教科書原文

教科書教材文の原文データを収録しています。

朗読CD

一部の教材について、朗読を収録した音声CDです。

漢文エディタ

訓読文や漢文テストの問題文を編集するためのソフトです。

学習課題ノート

別売の生徒用教材『学習課題ノート』のデータを同梱しています。

教師用教科書

教科書の紙面に、文章構造や要約、口語訳や文法の解説、「学習の手引き」の解答例など、授業に役立つ情報を青字で刷り込んだものです。

指導書別売品

■ 教師用教科書 本体価格五、〇〇〇円（税別）

指導書の「教師用教科書」と同じものです。

■ 指導資料PDF版 本体価格五、〇〇〇円（税別）

指導書の「指導資料」の紙面をPDFデータにしたものです。

生徒用教材

■ 学習課題ノート 本体価格八〇〇円（税別）

教科書準拠のワークブックです。別冊解答には、自習にも使える詳しい解説が付いています。

訓点の編集



「漢文エディタ」





## デジタル教科書

## 指導者用デジタルテキスト

## はじめに

## ●教科書の内容を最大限に活用すること

デジタルテキストでは、教科書本文の拡大提示、付録や図版資料のインデックスおよびその拡大提示など、教科書の内容を提示用の素材として、最大限に活用することをコンセプトに制作いたしました。

## ●CoNETSビューア

平成29年度版からは教科書会社12社が参画して開発した共通プラットフォームCoNETSビューアでのご利用になります。

▶CoNETSについて (<http://www.conets.jp/>)

CoNETSビューアでは、先生ごとにユーザーを登録することで、書き込み情報や履歴などをそれぞれに保有することができます。



※画面サンプルはすべて「精選国語総合」となっております。

CoNETS 版 三省堂は、CoNETSプラットフォームを通じてデジタル教科書を提供してまいります。

指導者用デジタルテキスト (校内フリーライセンス) ※1			
OS	ライセンス期間	価格	インストール方法
Windows版	教科書利用期間一括 ※2	40,000円+税	DVD-ROM / ダウンロード
学習者用デジタルテキスト (1端末1ライセンス) ※3, 4			
OS	ライセンス期間	価格	インストール方法
Windows版 / iOS版	教科書利用期間一括 ※2	1,500円+税	ダウンロード

※1 校内のすべての端末にインストール可能です。なお、価格は1学年の価格です。

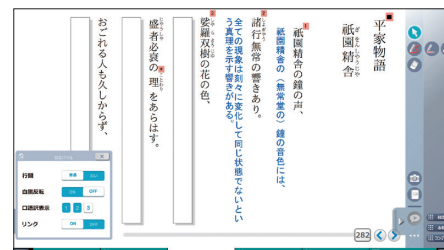
※2 収録されている検定教科書の使用期間中にご利用いただけます。

※3 教師用デジタルテキスト購入校のみ購入できます。

※4 インストールする端末(1端末)ごとにライセンス料金をお支払いいただけます。

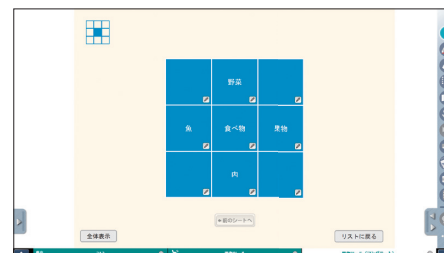
## 指導者用 豊富なコンテンツで授業をサポート

## ■本文解説



本文の口語訳のon/offができます。マスクをはがしながら表示することもできます。

## ■思考ツール



デジタルテキストオリジナルのコンテンツも多数収録しています。

## ■コンテンツ一覧



「フラッシュカード」「図版資料」「人物相関図」など、さまざまなコンテンツを収録。

## ■オンライン辞書



授業での提示に特化した指導者用の辞書サイトをデジタルテキストのリンクからご利用いただけます。

## ●動作環境 指導者用 (2017年4月現在)

Windows版	
OS	Windows 7 SP 1 / Windows 8.1 / Windows 10 (32bit / 64bit 対応) ※1
ブラウザ	Internet Explorer 11
CPU	Intel Core i3以上推奨
メモリ	4GB以上
空き容量	4GB以上(ビューア1GB+教材3GB)
モニタ	True Color(32bit) ※2
その他	.NET Framework 4.5以降 Aero設定: ON ※2

※ Microsoft, Aero, Internet Explorer および Windows は、米国 Microsoft Corporation の、米国およびその他の国における登録商標または商標です。

※1 Windows RT には対応しておりません。

※2 Windows 7 の場合のみ。

動作環境や導入にあたっての条件等は、CoNETSのWebサイトにて最新の情報をご確認ください。 <http://www.conets.jp/>

学習者用デジタルテキスト についての特徴や動作環境など、

その他詳細な情報は三省堂教科書・教材サイトをご覧ください。

●体験版DVD-ROMのお申し込みはeメールにてご連絡ください。

eメールアドレス: [info-tbdt@sanseido-publ.co.jp](mailto:info-tbdt@sanseido-publ.co.jp)

★三省堂教科書・教材サイト  
<http://tb.sanseido.co.jp>

